



第10回
楽しい仲間の

年末の

音楽会

期日 2022.12.16(金) 会場 スタジオ・エンザ

1. 演奏者 草野 文喜

演奏曲 花 作曲者 瀧 廉太郎

日本の名曲の一つです。クラシックギターでうまく表現できるか不安ですが挑戦してみます。

瀧 廉太郎（明治12年～明治36年）

『春のうららの隅田川』が歌いだしの「花」は歌曲「四季」の1曲目で春の曲にあたります。夏は「納涼」秋は「月」冬は「雪」という曲がありますが、花が圧倒的に有名で他の3曲はほとんど知られていません。元々は「花盛り」という曲でしたが、月と雪に合わせて曲名もシンプルになりました。

廉太郎が23年の生涯で作った曲は「花」「荒城の月」「箱根八里」…など確認されるもので34曲と決して多くはありません。

しかし彼の曲は日本人として初めて西洋音楽を下地にしつつ、日本的なメロディを違和感なく乗せることに成功、西洋音楽と日本的な感性をうまく融合させた功績は大きなものでした。



2. 演奏者 山本 周治

演奏曲 川の流れのように
作曲者 見岳 章

美空ひばりの生前最後の曲です。
ギタリストの福田進一編曲で2004年に刊行された
「わが心の演歌」(い)(現代ギター社)に載っています。
難しくてマスターできていませんがベストを尽くします。

戦後の日本を代表する歌い手とは聞かれたとき、美空ひばり(昭和12年～平成元年)の名前が出てこない人はいないといっても過言ではないでしょう。日本の戦後そのものであったともいわれています。

«一滴の雨が木の根を伝いせせらぎが小川になる。水の流れがあちこちにぶつかり突き当たりながらだんだんに大きくなる。やがて大河になってゆっくりと海にたどり着く。人生も本当に川の流れのようなもの»

最後の作品となった「川の流れのように」(1989年)は美空ひばりの駆け抜けた人生と歌が見事に融合された代表作となりました。



3. 演奏者 横山 晶子

● 演奏曲① 小さなロマンス 作曲者 ルイゼ・ワルカー

● 低音の美しい旋律と高温の旋律アルペジオなどいろいろなギターの特徴を生かした楽しいこの曲を弾いてみたいと選びました。

● 演奏曲② ジャニー・ギター 作曲者 ビクター・ヤング

● 以前は合奏で演奏しましたが、今度はソロに挑戦です。ペギー・リーが歌った主題歌は世界的なヒット曲になりました。この物悲しいメロディの響きを大切に弾いてみたいと思います。

①ワルカーはオーストリア出身で20世紀を代表する女流ギタリストです。この曲は3つのセクションとコーダがタイトル通りコンパクトにまとめられた佳曲で、クラシックギターをやる人のほとんどが一度は練習する曲でもあります。

②映画「大砂塵」は1954年制作のアメリカの西部劇。主人公のジャニー・ギターを巡る二人の女性の決闘が話題となりました。

作曲者のビクター・ヤングは代表作として「シェーン」「エデンの東」その他「80日世界一周」のテーマ曲など多くの大作を残しています。



4. 演奏者 福崎 實

● 演奏曲① ワルツ・ピカピカ ベネズエラ民謡

● 2018年12月の発表会で一度弾いた曲ですが、曲の流れが軽快で馴染みやすいので再度弾くことにしました。

● 演奏曲② アルハンブラの思い出 作曲者 タレガ

ギターを始めた時からいつかは自分でも弾いてみたいと思っていた曲で、今回から挑戦してみることにしました。「挑戦第一回目」です。

①ピカピカのpicaはスペイン語のpicarが転じたもので、心がうずくという意味でも使われているそうです。

この曲は「君の影になりたい」などの副題もあります。

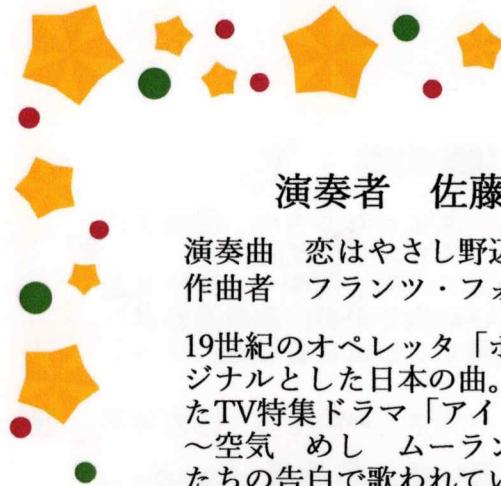
口に出しては言えないが心惹かれた人の身近にいたい！そんな何とも切ないメロディが伝わってきます。

②今更ですが…

スペインの作曲家・ギタリストのフランシスコ・タレガにより1896年に作曲されたあまりにも有名なギター曲です。

このアルハンブラ宮殿は元々はイスラム教徒が建築した城塞でしたが、15世紀後半にキリスト教徒により陥落。取り壊されるはずだった運命があまりにも美しく見事であったためそのまま現代に残されています。様々な人間の思惑や征服欲に翻弄されながらも凛としてそびえる姿に、イスラム教徒にとっては祖先の栄華と奮闘に思いを馳せる場所となっています。





Special Gift

演奏者 佐藤 茂勝 先生

演奏曲 恋はやさし野辺の花よ

作曲者 フランツ・フォン・スッペ

19世紀のオペレッタ「ボッカチオ」の歌をオリジナルとした日本の曲。2022年の夏に放送されたTV特集ドラマ「アイドル」ができるまで～空気 めし ムーラン～ 戦時下の“アイドル”たちの告白で歌われていた曲です。戦前、戦中、戦後にかけて、新宿の劇場ムーラン・ルージュとそこでアイドルとして活躍する“明日待子”を主人公としたストーリーです。



今回は私たちの合奏曲をソロで聴かせてくださいます。
この曲は大正時代にブームとなった浅草オペラ最高の名曲の一つです。
なかでもテノール歌手・田谷力三の熱唱は大人気を博しました。

浅草オペラとは大正中期に浅草で民衆娯楽として栄えたオペラやミュージカルなどの芸能のことです。

美しい日本語の歌詞も味わいながら、しばし私達も大正ロマンの華やかな時代に思いを馳せてみたいものです。



Memo

街が華やぐ季節になりました。
しかしながら、このコロナ禍は未だに出口が見えません。
外出もままならない日々、傍らのギターをつま弾くと何とも優しい音色に包まれ癒されます。
来る新しい年もまた腕に磨きをかけつつ、元気で楽しい時間を過ごしていきましょう。

皆様どうぞよいお年をお迎えください。

